

太平洋沿岸では高濃度クロロフィルaは確認されていない

JAXAが公開している衛星データ（GCOM-C、JASMESプロダクト）を元に植物プランクトン量の目安となるクロロフィルa濃度推定値の分布を示しました（図1～図3）。その結果、**太平洋沿岸では赤潮が疑われる高濃度のクロロフィルa領域は確認されませんでした**。12/1～9の赤潮モニタリングにおいて、カレニア・セリフォルミス（Ks）は検出限界以下（ <0.1 cells/ml）の点が多くなっていました（12/10時点）。

ただし十勝総合振興局管内の閉鎖的な漁港内部のみ例外で、12/8採水分に限りKsが630 cells/mlと高密度に出現していました。しかし衛星画像を拡大しても、十勝沿岸では高濃度のクロロフィルaは確認されないため、これはごく狭い範囲での局所的な現象と考えられます（図3）。

衛星画像およびモニタリング結果から、広域に赤潮が出現する可能性は低いと考えられます。一方、閉鎖的な海域でごく局所的にKsの赤潮が発生する可能性は否定できません。

漁港・港湾等における海水の着色に注意するとともに、もし海水の着色が見られた場合は水産物の蓄養などには用いないようにして下さい。

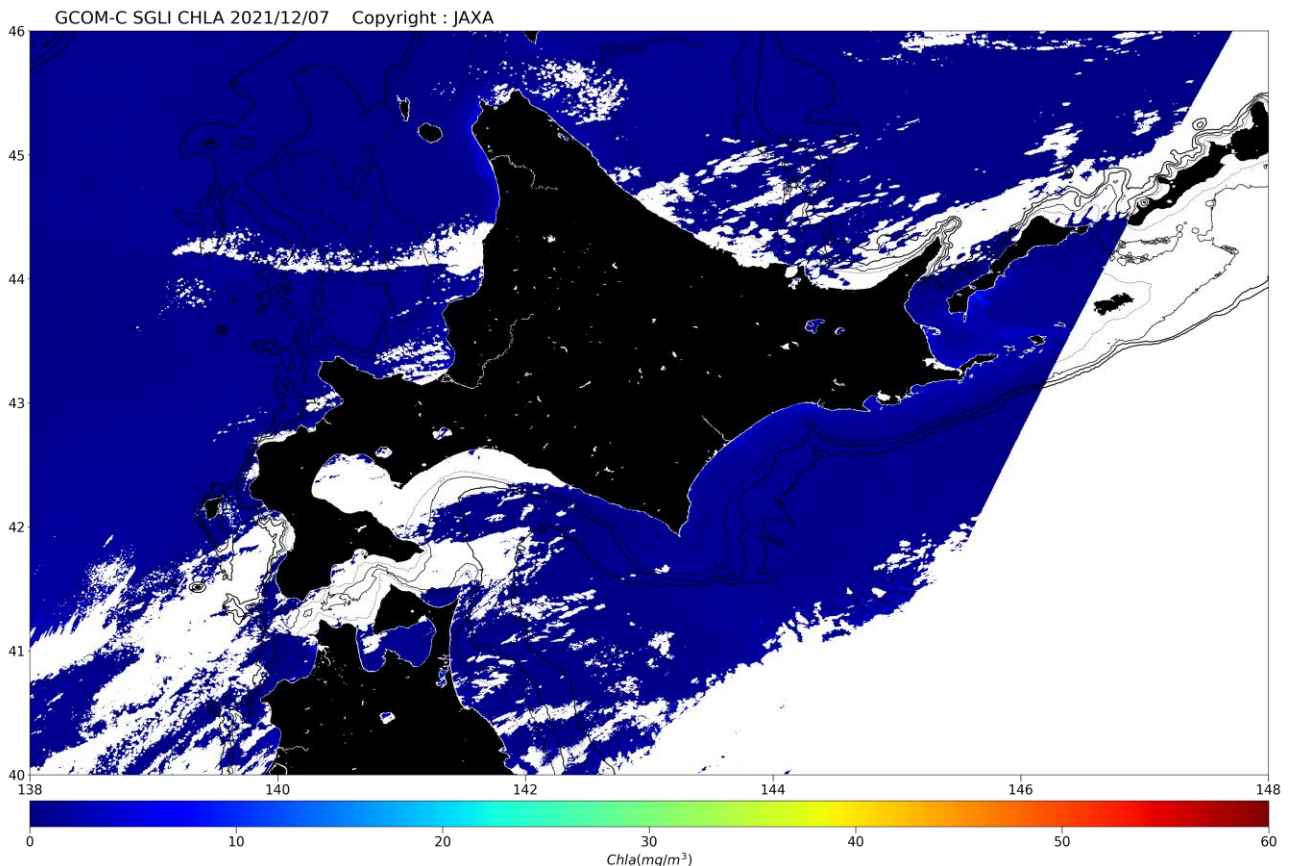


図1 2021年12月7日の表層クロロフィルa濃度（極端に高い領域を抽出するため0～60 mg/m³までの実数スケールに調整して作図）

等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

※注意事項

- 人工衛星の観測画像より推定されたクロロフィルa濃度は誤差を含むことがあり、表層のみのデータであるため、あくまでも参考値です。
- 高濃度のクロロフィルa領域が全て赤潮とは限りません。増殖した珪藻類などの植物プランクトンや、河川水由来の溶存有機物や懸濁物の影響で高濃度領域を形成することもあります。

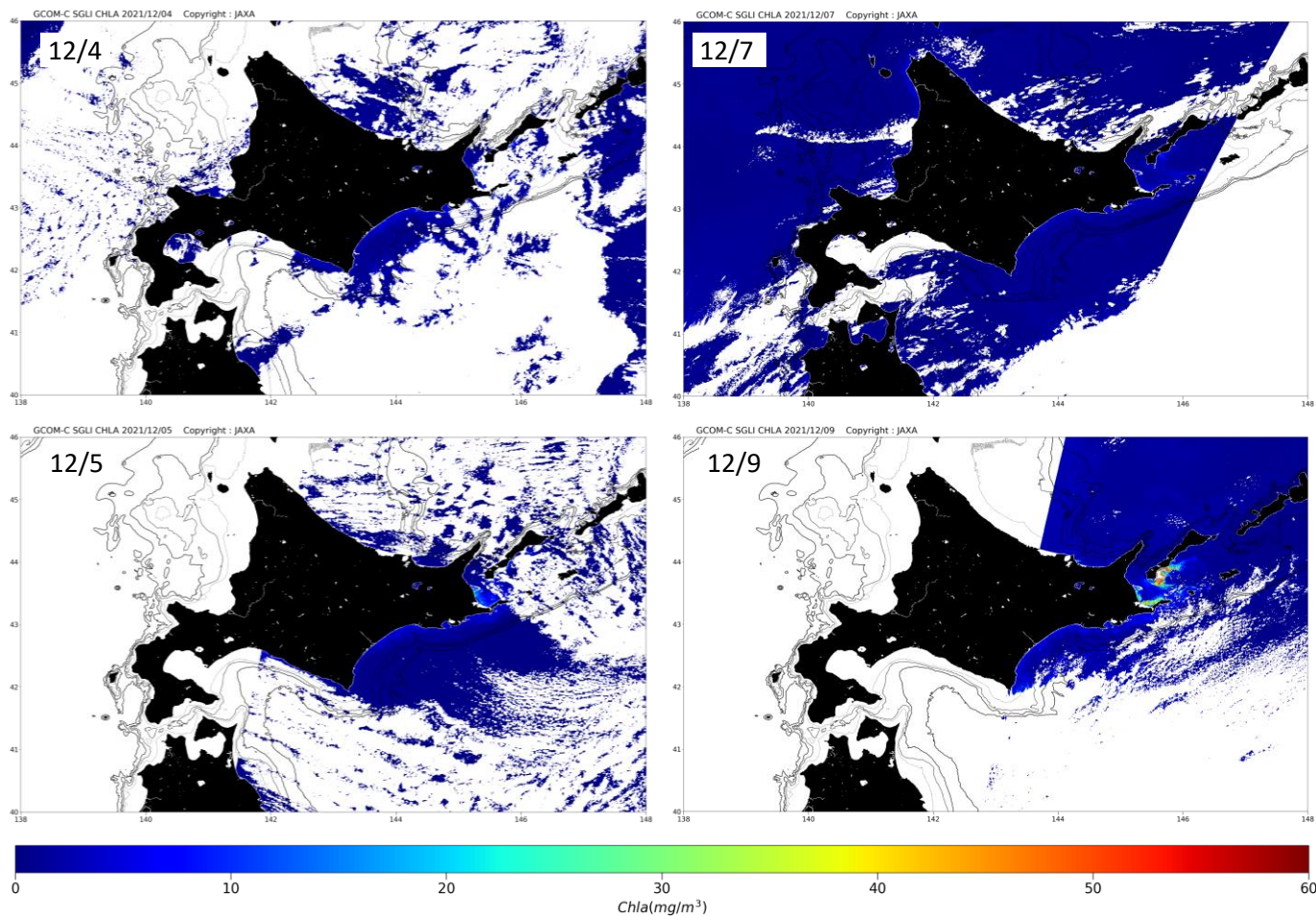


図2 12/4～12/9の表層クロロフィル*a*濃度 (0～60 mg/m^3 までの実数スケールで作図)
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

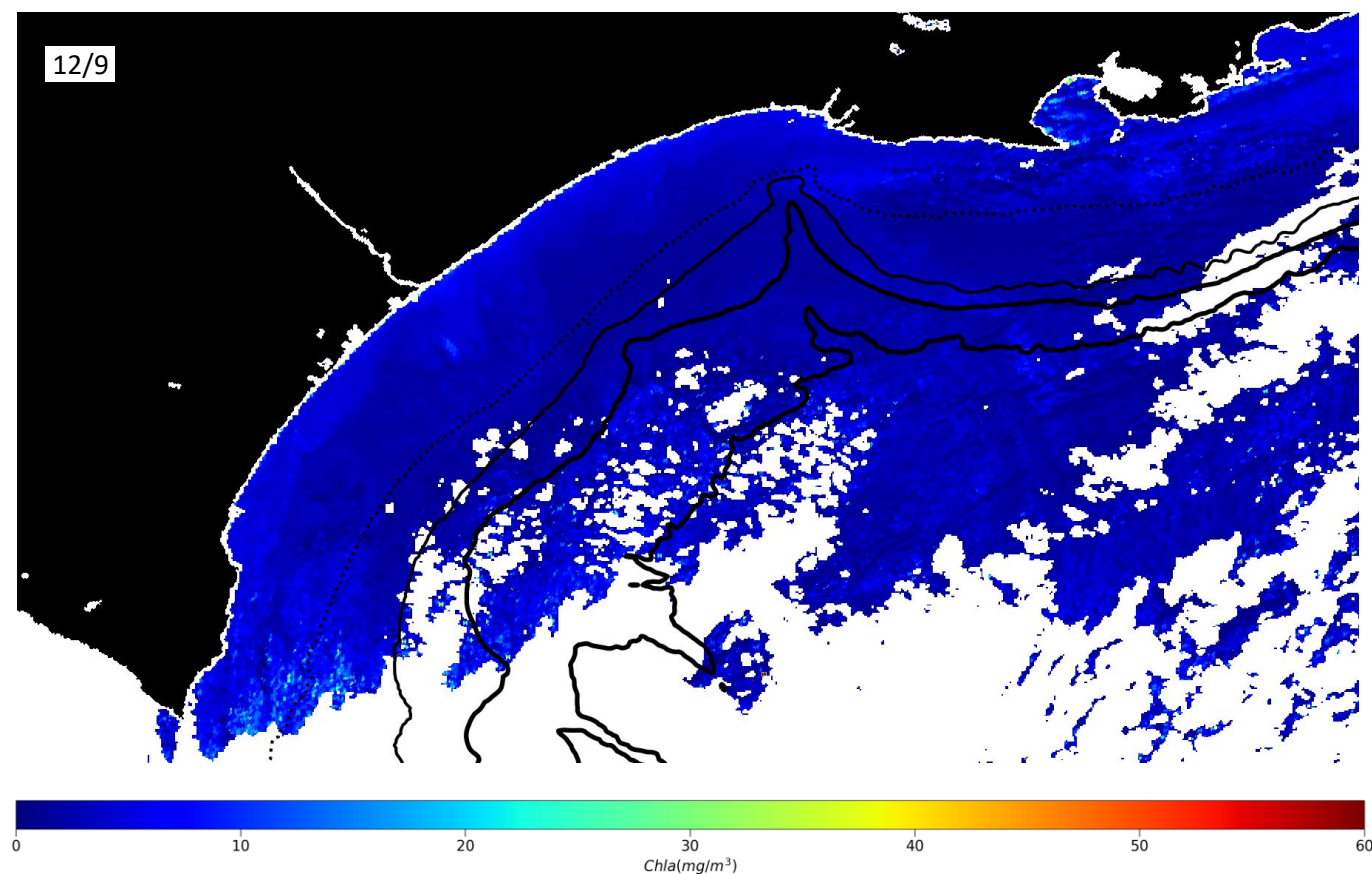
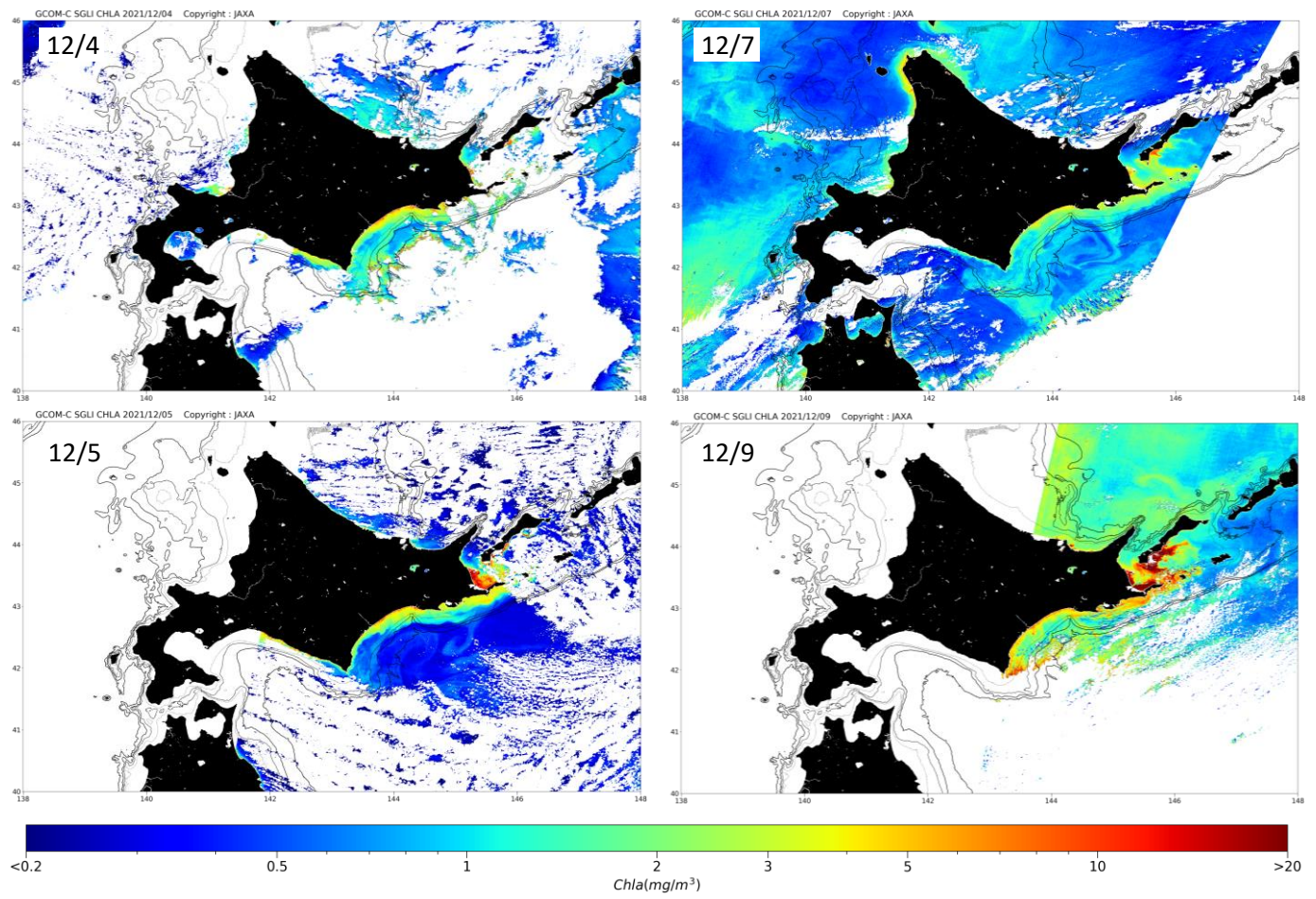
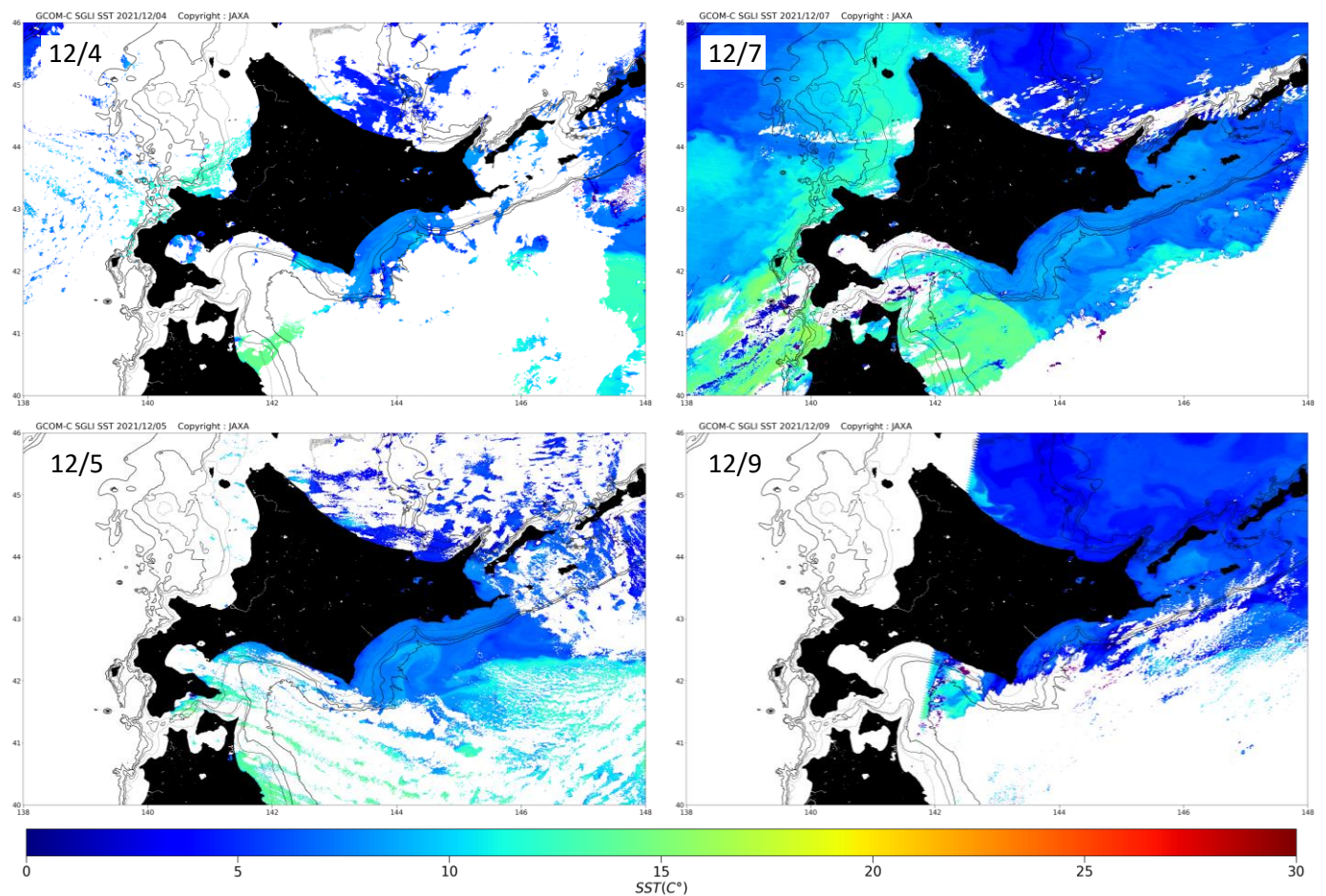


図3 12/9の道東海域を拡大した表層クロロフィル*a*濃度 (0～60 mg/m^3 までの実数スケールで作図)
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m



参考図1 0.2～20 mg/m^3 までの対数スケールで作図した12/4～12/9のクロロフィル*a*濃度の衛星画像



参考図2 12/4～12/9の表面水温の衛星画像